

広報



Public-relations Wakasa

7

2013
No. 99

今が旬！若狭の青いダイヤ
(特産福井梅、全国各地へ出荷中！)





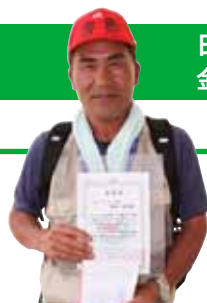
第22回 若狭・三方五湖 ツデームーブ





5月18日と19日の2日間、第22回若狭・三方五湖ツーデーマーチが三方グラウンドを主会場として開催されました。

若狭・三方五湖ツーデーマーチは、国内で開催されているウォーキング大会の中でも最上位に位置する「日本マーチングリーグ」に加盟しており、三方五湖や瓜割の滝などの自然景観、また熊川宿など歴史景観が素晴らしい大会として、ウォーキング愛好家から好評を得ています。



日本マーチングリーグ
金メダル受賞者

濱田 光夫さん（広島県）

今は歩けることが楽しい。今回は風景を眺めながら20kmを歩きました。若狭・三方五湖は景色と民宿が良いです。

当日は、町内をはじめ全国各地から延べ5,169人が参加し、五月晴れの空の下、参加者らは愛好家同士、または家族や友人たちと一緒に会話に花を咲かせながら、笑顔でウォーキングを楽しみました。

また、昨年から行われている「ベストドレッサー」も行われ、おしゃれな着こなしで参加するウォーカーも多く見られました。

ベストドレッサー（1日目）

三宅佑奈ちゃん・杏奈ちゃん
（若狭町）

好きな服を着て参加して、7kmを歩きました。



ベストドレッサー（2日目）

デイサービスいずみの皆さん
（若狭町）





社団法人日本ウォーキング協会
副会長 小栗正光 氏



歩いて健康に！

若狭・三方五湖ツーデーマーチは、自然の変化に富んだ魅力ある大会です。町長をはじめ、地元の方々が心を込めて歓迎してくれおり、ウォーカーたちも、その魅力を感じているでしょう。ウォーキングは、「自然とのふれあい」、「歴史・文化とのふれあい」、「人とのふれあい」を楽しめるほか、健康寿命を延ばすスポーツとして、今後も、町民の皆さんも参加して欲しい。

民宿の料理が美味しく、また来たいと思った。(70代女性：大阪)

道端、家の入口などきれいに掃除しており、気持ちが良い。(70代女性：県外)



地元小学生・中学生の参加が多い気がした。歩育の観点からも良い傾向です。(60代男性：三重県)

湖の周辺を歩くことは気持ちが良い。気分転換にもなる。(60代男性：県内)

民宿で宿泊しましたが、食事も値段も満足でした。(70代女性：静岡県)

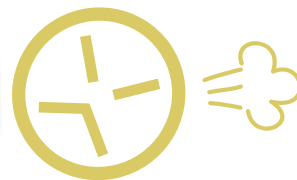
チェックポイントと給水所の対応は心に残りました。ありがとうございました。(60代男性：神奈川県)

主要交差点などに警察官や交通指導員が配置されていて安心して横断できた。(50代男性：県内)

普段は通ることのない道で、とても楽しかったです。(30代女性：県内)

出発式が長い。スピーカーの音も小さめにして欲しい。(70代女性：静岡県)

歩道の草刈りがしてなく、小さい子どもたちが歩きづらい場所があった。(50代女性：町内)



20kmのスタートを8時00分にしてもらえると、ゴール後にゆっくりできる。(70代男性：大阪)

チェックポイントで残り何kmかを書いて欲しい。(50代女性：県内)

タバコを吸いながら歩いている人がいた。小さい子どもも歩いているので考えて欲しい。(60代女性：町内)

※参加者の声や集計結果は、当日に行われたアンケートから抜粋したものです。



NPO法人福井県ウォーキング協会 理事長 中村保之氏



自然が教室！

若狭・三方五湖ソーデーマーチのように、海や湖、山、川などの自然が揃った大会は、全国にもありません。この大会を続けていくためには、この自然を伝え、守っていく必要があります。そのためにも、子どもたちも参加して、ふるさとの良さを知ってもらいたいと思っています。ウォーキングは、子どもと親と一緒に楽しめるスポーツです。自然という教室で目に見える良さを感じて欲しい。

レインボーラインのコースを今一度復活して欲しい。(60代男性：岡山県)

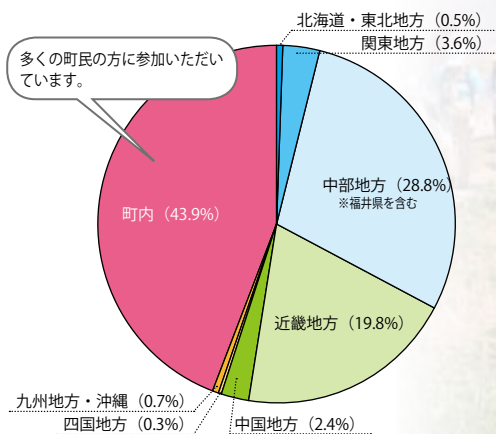
スタッフ・ボランティアの皆様お疲れ様でした。(50代女性：県内)

不便さに慣れることも大事ですね。この自然を大切に守っていききたいですね。(60代女性：神奈川県)

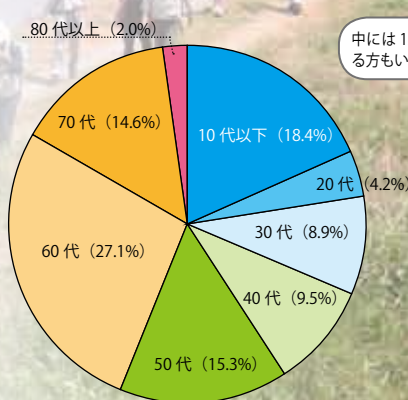
スタッフの方、色々ありがとうございました。ご苦労おかけしました。(60代女性：北海道)

長年続けていることが良い。これからも未永く続けてください。(50代男性：県内)

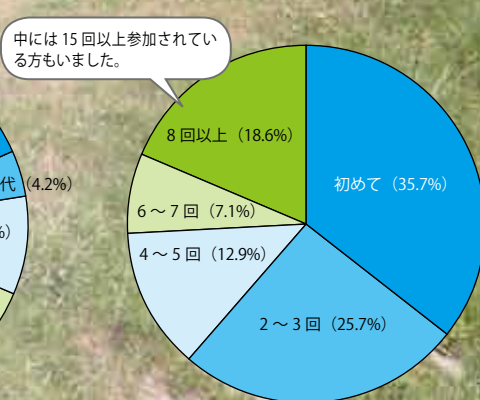
■参加者の住所



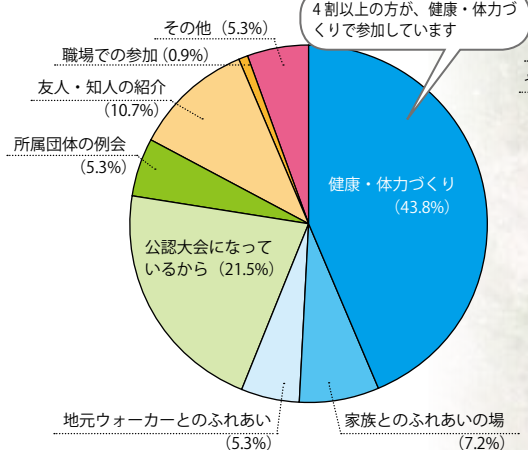
■参加者の年代



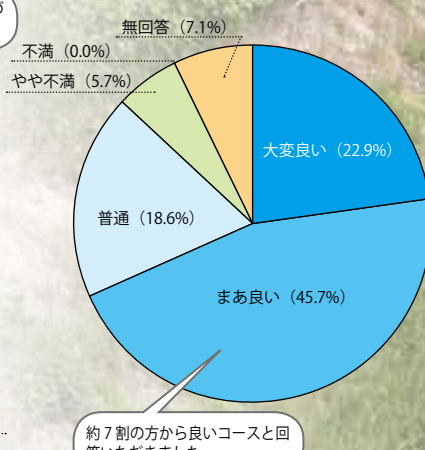
■参加した回数



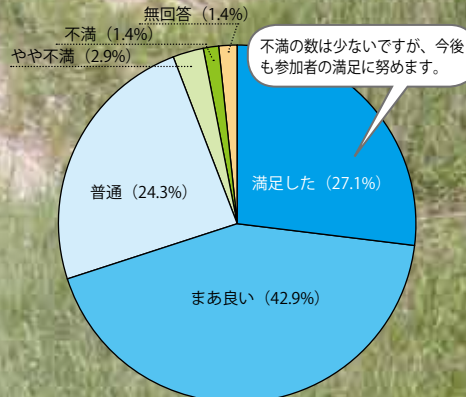
■参加した理由



■コースについて



■スタッフの対応について



まちの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(総務課 TEL45-9109)



▲拾い集めたゴミをトラックに載せる参加者



世界に誇れる湖に (5/11)

三方五湖一斉清掃活動が行われました。

この活動は、三方五湖保全対策協議会が呼びかけて行われたもので、町内外から約 500 人が参加しました。

当日は、あいにくの雨模様となりましたが、参加者らは、「美しい三方五湖を取り戻そう」と、湖畔沿いのゴミを拾い歩いたり、漁船を使って湖上にあるゴミを拾うなどしました。

清掃活動に参加した三方小学校の 1 年生の加藤 竜田くんは、「寒かったけど、ゴミをたくさん拾った」と話していました。



泥に悪戦苦闘！でも楽しい♪ (5/16)

鳥羽小学校の児童が田植え体験を行いました。

この体験は、稲作を通じて、郷土の自然や環境について学ぼうと行われたもので、同校の 5 年生 28 人が、地元の老人会のメンバー 5 人から指導を受けながら、1.5 アールの田んぼに、手植えで苗を植えました。

植えた苗は、もち米の品種「カグラモチ」で、収穫後に、みんなで餅つきをして食べる予定です。

田植え体験をした島津海晴さんは、「手植えしたのは初めてだけど、たぶん上手に植えることができた。自分で植えたものを早く食べたい」と、秋の収穫を楽しみにしていました。



▲田植えを体験する児童ら



手間ひまがおいしさの秘訣 (5/21)

みそみ小学校の児童が、岩屋梨の袋かけ作業を体験しました。

この体験は、特産品を通じて地元の良さを知ってもらおうと町が企画したもので、同校の 3 年生 17 人が、梨農家の高橋善正さんから指導を受けながら、約 130 個の梨の実一つひとつに小袋をかけました。

梨農家の高橋さんは、「袋をかけないと見た目が悪くなる。梨は手間ひまかけることでおいしくなる」と話し、袋かけを体験した上下渚紗さんは、「袋かけは難しかった。梨が好きなので、収穫が楽しみ」と話していました。



▲一つひとつの梨に袋をかける児童



学ぶことは一生の宝 (5/23)



▲講演に耳を傾ける参加者ら

「若狭町ほのぼのの大学」が開校しました。

この講座は、町内の60歳以上の方を対象にした生涯学習講座で、今年度は「仲間と一緒に学び“やさしいきもち”の笑顔あふれる家庭と地域を創ろう」をテーマに、年6回の講座が予定されています。

第1回目の講座では、仁愛女子短期大学の牧野みゆき教授が、「食と健康～健康寿命を延ばすための食事～」と題して講演を行いました。

牧野教授は、「動脈硬化は、カルシウムや野菜不足で発症しやすい。カルシウムの吸収を促進させる栄養素のある魚介類やきのこ類などと合わせて食べると良い」と話し、参加者らは、真剣な表情で耳を傾けていました。



英語で話してみよう (5/23)

パレア若狭で、パレ若塾「初心者向け英会話教室」が行われました。

パレ若塾は、文化活動や余暇活動につなげようと開かれている体験教室です。

今回、英語の指導助手として町内の小学校を回っているジェイソン・マンティさんを講師に迎えて、英語での挨拶や、海外で使える簡単な英会話などを5回コースで学びました。

参加した約20人の英会話初心者たちは、最初は、慣れない英語に悪戦苦闘していましたが、ゲームを取り入れた指導を受けているうちに、自然と参加者同士の英会話を楽しんでいます。



▲ゲームをして英会話を楽しむ参加者ら



大活躍！ちびっ子観光PR隊 (5/23)



▲観光客に若狭町をPRする児童

気山小学校の6年生の児童12人が、修学旅行で訪れた奈良公園(奈良県)や吹田市役所(大阪府)で、ちびっ子観光PR隊として若狭町をPRしました。

この取り組みは、同校が県外の人との交流を通じ、自分たちの町の良さを知らうと3年前から始めたものです。

児童たちは、同公園を訪れていた観光客に声をかけ、相手の出身地やその名所などの会話を交えてから、自分たちの町を丁寧に紹介しました。

児童たちは、海外からの観光客にも積極的に声をかけるなどし、今回のPRの手ごたえと、改めて自分たちの町の魅力に自信を感じていました。



初夏の里を歩こう (5/25)



▲初夏の里山を歩く参加者たち

ウォーキングイベント「みかたの里初夏を歩こう」が行われました。

このイベントは、三方公民館が企画しているもので、今年で5回目の開催となります。

今回は、三方公民館を出発し、明倫地区にある向陽寺や串小川などを巡る約10kmのコースが設定され、参加者たちは、それぞれのペースで初夏の里山を楽しみました。

参加者たちは、「普段近くに住んでいても寄らない場所を見て回ることができた」と話し、みかたの里にある魅力を再発見していました。

ゴールには、豚汁や果物などが用意され、参加者たちは歩いた疲れを癒していました。



若狭路を颯爽と走る (5/26)

若狭路センチュリーライド2013が、三方庁舎前を主会場に行われました。

この大会は、嶺南地域一帯でサイクリングを楽しむイベントとして、「自然に大の字あそぼーや」が企画・運営しているもので、昨年から開催されています。

今大会には、全国から757人のライダーが参加し、ロング（約160km）とハーフ（約80km）の2コースを、思い思いのペースで快走しました。

ゴールすると、会場には生ウニやサザエ、フグ汁などが用意されており、ライダーたちは若狭の幸で疲れを癒していました。

ロングコースに参加した、比樂知也さん（愛知県）は、「レインボーラインからの景色はきれいで楽しめたが、3つ目の休憩所あたりからは、疲れて景色を楽しむ余裕がなくなりました」と、残念そうに話してくれました。



▲スタートするライダーたち



▲景色を楽しめるコースが満載



▲会場に集まったライダーたち



▲颯爽と走るライダーたち



▲ゴールしたライダーに記念品を贈るスタッフ



けんさん 日々の研鑽が交通安全に (6/1)



▲警察署員からの指導を聞く交通指導員ら

若狭交通指導員連絡協議会の研修会が若狭町歴史文化館で行われました。

この研修会は、交通指導員の知識や技能向上を目的に開かれているもので、参加した若狭地区の交通指導員約 80 人が、小浜警察署の署員から交通指導員としての心構えやマナー、実技について学びました。

講師の署員からは、「第一に自分の身を守ることが大切」と、誘導する際の立ち位置などが説明され、参加した指導員らは、真剣な表情で指導を受けていました。

その後、交通指導員らは、若狭テクノパークに会場を移し、グラウンドゴルフで指導員同士の親睦を深めました。



いつまでも野球少年 (6/1 ~ 2)

三方五湖還暦野球交流大会が三方グラウンドと上中グラウンドで行われました。

大会には、岐阜県、滋賀県、石川県、福井県から 9 チームが参加し、各試合とも熱戦が繰り広げられました。

地元の美方倶楽部は、初戦から投打がかみ合って順調に決勝へ進み、決勝戦で草津グリーンズ（滋賀県）を 8 対 0 の大差で破って、2 度目の優勝の栄冠を手に入れました。

また、町内の民宿に各チームが宿泊し、選手たちはグラウンド外でも交流を深めたようです。

試合結果 (①優勝、②準優勝、③3 位)

- ① 美方倶楽部 (若狭町)
- ② 草津グリーンズ (滋賀県)
- ③ 丹南クラブ (越前市)、南条野球クラブ (南越前町)



▲巧みなバッティングを魅せる美方倶楽部の選手



楽しく走ることがコツ (6/1)

キッズスマイルランニング教室が野木小学校グラウンドで行われました。

この教室は、翌日に行われるわかさあじさいマラソンに合わせて企画されたもので、若狭町出身のランナー大南博美さんと敬美さんの双子姉妹が、参加した小学生 12 人に速く走るためのコツやトレーニング方法などを指導しました。

大南博美さんは、「肩を上げずに腕を大きく振ることで速く走れる」とアドバイスし、また、大南敬美さんは、「楽しく練習すれば、どんどん速くなると思うので、頑張ってください」と参加した児童らにエールを送りました。



▲大南さんの指導を受けてトレーニングをする児童たち



走れわかさ路 ひろがれ未来! (6/2)



▲合図とともに一斉にスタートするランナーたち

第9回わかさあじさいマラソンが、野木小学校グラウンドを主会場に行われました。

大会には、県内外から過去最多の2,474人が参加し、初夏の若狭路を快走しました。

また、前日のキッズスマイルランニング教室から引き続いて大南博美さんと敬美さん姉妹もグストランナーとして参加し、参加者らと一緒に爽やかな汗を流しました。

ハーフ一般男子の部で優勝した辻友寛さんは、「知り合いに勝手に応募されていて、はじめて福井県を訪れましたが、涼しい風もあって走りやすく、気持ちよかったです」と、20km以上を走り切った後にも関わらず、笑顔で話してくれました。



▲選手宣誓をする
岡本光洋さん・凌空さん親子



▲疲れた中でも笑顔で応える
ランナーたち



▲ゴールを喜ぶ親子ランナー

■ 2km 親子ファミリー

順位	氏 名	住 所
1	北村 康雄・恭聖	滋賀県
2	浦川 雄次・尚樹	京都府
3	中村 大輔・風菜	京都府

■ 2km50 歳以上男子

順位	氏 名	住 所
1	谷河 稔	奈良県
2	斉藤 謙二	愛知県
3	西村 和凡	滋賀県

■ 3km 小学男子

順位	氏 名	住 所
1	岩田 嵐	岐阜県
2	井上 大己	富山県
3	中村 天菜	京都府

■ 3km 小学女子

順位	氏 名	住 所
1	白井 涼乃	滋賀県
2	内田 真樹	兵庫県
3	若井 美沙希	大阪府

■ 3km 中学女子

順位	氏 名	住 所
1	大同 美空	美浜町
2	橋本 はなえ	若狭町
3	高本 早紀	大阪府

■ 3km 一般女子

順位	氏 名	住 所
1	川島 佳子	美方高校
2	藤本 奈緒	美方高校
3	林田 有紀	美方高校

■ 3km30 歳以上男子

順位	氏 名	住 所
1	今西 智信	京都府
2	細見 剛	京都府
3	稗 清隆	滋賀県

■ 5km 一般女子

順位	氏 名	住 所
1	松井 光代	兵庫県
2	川中 真里	京都府
3	本村 愛	小浜市

■ 5km 中学男子

順位	氏 名	住 所
1	村上 勇次	若狭町
2	兵田 聖夜	若狭町
3	塚本 瑞人	若狭町

■ 5km39 歳以下男子

順位	氏 名	住 所
1	増田 峰之	敦賀市
2	谷口 遼亮	美方高校
3	福田 教人	敦賀市

■ 5km40 歳以上男子

順位	氏 名	住 所
1	磯部 健	大阪府
2	隠岐 志郎	美浜町
3	松本 博司	滋賀県

■ 10km 一般男子

順位	氏 名	住 所
1	網谷 敏宏	美浜町
2	米田 天明	岐阜県
3	深津 備	石川県

■ 10km 一般女子

順位	氏 名	住 所
1	市川 実季	滋賀県
2	兼田 純子	小浜市
3	武井 美帆	愛知県

■ ハーフ一般男子

順位	氏 名	住 所
1	辻 友寛	三重県
2	田中 仁	新潟県
3	中井 芳聡	京都府

■ ハーフ一般女子

順位	氏 名	住 所
1	古家 雅恵	滋賀県
2	伊藤 恵梨	愛知県
3	大谷 潤子	兵庫県

(敬称省略)



▲初出荷のトラックを見送る園児たち



若狭の旬は梅雨にあり (6/6)

特産福井梅の出荷が始まりました。

選果場には、農家が収穫した青梅が運びこまれ、JAの職員がサイズごとに箱へ詰めていきました。

初日には、初出荷セレモニーが選果場で行われ、梅の里保育園と岬保育所の園児による太鼓の演奏や合唱で初出荷を祝いました。

テープカットの後、梅酒や梅ジュースなどの加工に適した品種「剣先」約6トンが、園児や関係者らに見送られて全国の市場へ向けて出荷されました。

福井梅は、種が小さく、果肉が厚いことで全国でも高く評価をされており、若狭町は、県内生産量の約8割を占めています。梅干しに適した品種「紅映」は6月13日から7月5日まで出荷されます。



水害から住民を守る (6/8)

若狭町水防訓練が、若狭テクノバレーにある日本電気硝子株式会社若狭上中事業場のグラウンドで行われ、消防署員や消防団員ら約350人が訓練に参加しました。

水防訓練では、総雨量が300ミリに達し、さらに激しい雨が続きと想定された訓練が行われ、杭打ち積土の工法やシート張り工法など増水時の浸水に備えた手順を学びました。

参加した団員らは、消防署員から技術指導を受けながら、丁寧に土のうを積んだり、手際よくロープを結びつけていきました。

ほかにも、若狭町建設業会によるクレーン車を使った訓練や、日赤奉仕団による無洗米の炊き出しなども行われました。



▲土のうを積み上げる消防団員ら



クラシックって楽しい (6/10)

子どもたちに優れた演奏を身近に感じてもらおうと、学校訪問コンサートが岬小学校・三方中学校岬分校で行われました。

今回は、クラシックアンサンブル「アッサンブラージュ」のメンバーのうち5人が同校を訪れ、児童生徒12人にクラシック7曲を披露しました。

ほかにも、指揮者体験やバイオリンの演奏体験なども行われ、児童生徒たちは、終始楽しい時間を過ごしました。

指揮者体験をした5年生の松本朋くんは、「指揮は難しかったけど楽しかった。また聴きたい」と話していました。

同コンサートは、鳥羽小学校でも行われました。



▲演奏の指揮に挑戦する児童